

普及活動現地情報

「農業現場では、今」



【西牟婁振興局】農業士会女性部会が出前授業を県内外で実施

令和6年11月号

和歌山県農林水産部経営支援課

(農業革新支援センター)

はじめに

普及活動現地情報は、普及指導員等が行う農業の技術普及、担い手育成、調査研究、地域づくり等の多岐に渡る現場普及活動や、運営支援を行っている関係団体の活動、産地の動向等、その時々々の旬な現場の情報をとりまとめたものです。

それぞれの地域毎の実情に応じて、特徴ある普及活動を展開していますので、是非、御一読頂き、本情報を通じて、普及活動に対する御理解を深めて頂くと共に、関係者の皆様にとって、今後の参考になれば幸いです。

また、本情報については、カラー版（PDF ファイル）を和歌山県ホームページ内（農林水産部経営支援課：アドレスは下記を御参照下さい。）に掲載しており、過去の情報も閲覧出来ますので、併せて御活用下さい。

和歌山県農林水産部経営支援課ホームページ 普及現地情報アドレス

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/070900/hukyu/>

検索サイトより、以下のキーワードで御検索下さい。

和歌山県 経営支援課 普及



< 目 次 >

	頁数
I 海草振興局	1-2
1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】 ～いちご研修会を開催～	
2. 布引地区と県外の野菜生産者が交流	
3. 和海地方女性農業者交流会を開催	
4. 紀美野町農林商工まつり	
II 那賀振興局	3
1. 小学校で地場産農産物の出前授業を実施	
2. 紀の川市産業まつりでオーガニックおにぎりを販売	
III 伊都振興局	4-5
1. 小学校でつるし柿作成体験を実施	
2. 大阪ガスクッキングスクールコラボレッスンの実施	
3. 各農業団体が橋本市まっせ・はしもとで地域農産物をPR	
4. クビアカツヤカミキリ特別警戒調査の実施	
IV 有田振興局	6
1. 吉備湯浅PAにおいて「有田みかん」および「日本農業遺産」をPR	
2. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）アイガモ農法による米作り体験を 振興局長へ報告（表敬訪問）	
V 日高振興局	7-8
1. 重点プロジェクト【クビアカツヤカミキリ対策の強化及び梅の安定生産】 ～うめ「南高」のカットバック処理+摘心処理に係るせん定講習会を開催～	
2. 温州みかんの出前授業（収穫体験）を開催	
3. いちご生産者の園地巡回を実施	
VI 西牟婁振興局	9-11
1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進に よる産地維持】～うめ摘心樹のせん定及びカットバック処理の講習会を開催～	
2. 農業士会女性部会が出前授業を県内外で実施	
3. 西牟婁地方リーダー研修会を開催	
VII 東牟婁振興局	12
1. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が先進地視察研修を実施	

2. 東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会が農産物即売会を開催

Ⅷ 農林大学校 **13**

1. 園芸学科1年生、各試験場で研修を実施
2. アグリビジネス学科1年生の販売研修を実施

Ⅸ 経営支援課 **14**

1. 令和6年度普及指導員新技術習得研修を開催

I 海草振興局

1. 重点プロジェクト【若手生産者を中心としたいちご産地の再興】

～いちご研修会を開催～

農業水産振興課では、新規参入したいちご農家の安定生産を実現し、産地化につなげるべく普及活動を行っている。

今年は猛暑が続き育苗管理が難しく、炭そ病を発生させた生産者が多かった。そこで今一度炭そ病対策について学び、安定経営のヒントを得てもらうことを目的に、11月25日に農業試験場にていちご研修会を開催し、生産者12名が出席した。

農業試験場の菱池主任研究員から「炭そ病対策について」、小川主任研究員から「秋ランナーの利用について」、「CO₂施用の効果的な活用について」をそれぞれ講演いただいた。生産者から「予防剤は連用しても耐性菌はできないという理解でよいか」、「秋ランナーの挿し苗は切り離さず本ぼで育苗してもよいか」など質問があり、熱心に講演を聞いていた。

その後、生産者同士でかん水のタイミングや苗の切り離し時期、薬剤散布などについて、活発に意見交換が行われた。今回の研修会では、生産者間での情報共有もでき、今後の栽培に活かしてもらえる内容となった。



農業試験場研究員の話熱心に聴く

2. 布引地区と県外の野菜生産者が交流

11月6日、岡山県備南広域農業普及指導センターを通じてJA晴れの国岡山東部出荷組合のごぼう生産者12名が布引地区を来訪した。

JA晴れの国岡山東部出荷組合は「連島ごぼう」でGI認証制度に登録しており、同制度に登録している布引地区「わかやま布引だいこん」のブランドを維持する栽培技術や品質管理技術について視察に来られた。

JAわかやま南部営農センターにて、大根生産販売協議会役員3名も出席いただき、佐々岡普及指導員から海草地域の概要について、JAわかやま南部営農センター手平営農指導員から布引地区の砂地野菜について説明した後、生産者同士で意見交換を行った。作目は違うが同じ砂地栽培のため共通点も多く、土壌消毒や出荷方法などについて話が尽きなかった。異なる県であっても同じような栽培環境にある生産者同士で情報交換ができ、有意義な交流となった。



集合写真

3. 和海地方女性農業者交流会を開催

女性農業者同士の交流を深めるため、11月14日に産直市場よって岩出店にて和海地方女性農業者交流会を開催し、5名の参加があった。

はじめに、株式会社プラス取締役営業本部長小林優介氏から「株式会社プラスにおける直売所の多店舗展開について」の講演があり、配送システムの仕組みや販売促進の取組について説明いただいた。

その後、株式会社プラスの松場部長および南木主任も交えて、意見交換を行った。価格設定の方法や消費者が求める商品など話題に上がり、参加者は思い思いに意見を述べていた。

最後に店舗見学を行い、集荷状況や売り場レイアウトについて話を伺った。参加者からは、「他の生産者の苦労話を聞くことができてよかった」、「ざっくばらんに話し合いができてよかった」等の感想があった。農業者同士繋がりを作ることができ、よい機会となった。



講演



意見交換

4. 紀美野町農林商工まつり

11月24日、紀美野町文化センター木のぬくもり広場において第19回紀美野町農林商工まつりが開催された。

まつり前日に農産物品評会が行われ、審査員として当課から2名が出席した。JAながみね営農指導員、各賞提供者とともに、出品数87点の中から品目ごとにそれぞれの特性を踏まえながら、品質、大きさ、そろい等を基準に審査し、14の賞を選出した。本年は猛暑や病害虫の被害により出品数が例年より少なかったが、高品質なものばかりであった。まつり当日に行われた入札及び即売会では「こんなものも紀美野町で栽培されているのか」と珍しがるお客さんもいた。会場は活気にあふれ、地域の特産品をPRするよい場となった。

併せて、海草振興局農林水産振興部ではクビアカツヤカミキリの防除や有害捕獲の啓発、生石高原のふもとに広がる中田の棚田の再生活動について紹介した。



品評会

Ⅱ 那賀振興局

1. 小学校で地場産農産物の出前授業を実施

農業水産振興課では、紀の川市農業振興課や河南学校給食センター、粉河学校給食センター、紀の川市環境保全型農業グループ（以下、環境グループ）と連携し、紀の川市内の小学校6年生を対象に地場産農産物の出前授業を実施しており、11月は長田小学校、中貴志小学校の2校で授業を行った。

授業では、市及び当課職員が「紀の川市の農業の概要」を説明した後、長田小学校では環境グループの中村美紀氏から「農業に興味を持ったきっかけ・目標を持って取り組むこと」、吉見 宗三郎氏からは「おいしいトマトの作り方」、また中貴志小学校では、林 大輔氏から「桃の一年間」、台丸谷 久実氏からは「食と農のつながり」についてのお話があった。

児童から「農家になってよかったことは？」との問いに、講師はそれぞれ「自分で作った作物を美味しいと言ってもらえたこと」、「新鮮な野菜を食べられること」と答えた。

今後、児童達は地場産農産物を使った給食レシピを考え、2月の給食で提供され、その際、講師と児童の交流会が開催される予定である。



桃について解説する講師の農家

2. 紀の川市産業まつりでオーガニックおにぎりを販売

11月24日、那賀地方有機農業推進協議会（以下、那有協）は紀の川市産業まつりにおいて、市民への有機農業及び有機農産物のPRを目的に地域の有機米を使用したオーガニックおにぎりの販売を行った。

おにぎりには、那有協会員が生産した有機米やしょうが、だいこんをふんだんに使い、塩むすびと炊き込みご飯のおにぎりセット150食分（400円/パック）を用意した。

価格が少し高く、売り切れるか不安であったが、会員の熱心な売り込みもあり、お昼過ぎに完売した。

那有協のブースでは、有機農産物の販売も併せて行い、一般消費者との交流と有機農業・有機農産物のPRを行った。



有機農産物を販売する那有協のメンバー



有機米を使ったおにぎり

Ⅲ 伊都振興局

1. 小学校でつるし柿作成体験を実施

伊都地方特産のかきの美味しさを知ることにより、地域農業への理解を深めるとともに、地産地消の推進を図るため、伊都地方農業振興協議会（構成：伊都管内の市町、JA紀北かわかみ、NOSA Iわかやま、振興局）では、平成13年度から小学生を対象にかきの体験学習を行っている。11月はかきのお話とつるし柿作成体験を、管内及び和歌山市の14校の小学校において、421名の児童を対象に実施した。

つるし柿作成体験では、かきをつるすひもの作成、渋柿の皮むき及び実際につるすところまで実演し、児童は同様の作業を体験した。

作業体験した児童は、どこに干せばよいのか、どのぐらいの期間つるす必要があるのか等、つるし柿の作成に熱心に取り組んでいた。



かきのお話し



つるし柿作成体験

2. 大阪ガスクッキングスクールコラボレッスンの実施

11月3日、5日に、都市部へのかきの消費拡大を目的として、ハグミュージアムにて伊都地方農業振興協議会（上記参照）は株式会社大阪ガスクッキングスクールとのコラボレッスンを実施した。伊都地方のかきを用いて3日には親子を対象にカップケーキ、5日には大人を対象にバターケーキを作成し、計43名の参加者があった。

レッスンでは初めに、「刀根早生」、「平核無」、「富有」、紀の川柿の4種類を試食することで見た目や触感の違いを知ってもらい、その後インストラクターの指導のもとケーキの調理を行った。焼き上がりまでの時間には、和歌山県が日本一のかきの産地であることやかきの栄養、加工、流通について山崎技師が説明を行った。

参加者からは「かきについてたくさん知ることができ、勉強になった」、「上手に出来てよかった」などの声があった。



柿のお話し



クッキングの様子

3. 各農業団体が橋本市まつせ・はしもとで地域農産物を PR

11月18～19日、サカイキャニングスポーツパーク（橋本市運動公園）で開催された「第18回まつせ・はしもと～柿まつり2024～」に橋本市生活研究グループ連絡協議会（会長：小林由美子氏）、橋本市4Hクラブ（会長：辻本勝也氏）、高野山麓農産物産地化協議会（会長：土井清美氏）、伊都地方農業振興協議会（会長：溝口善之氏）が参加し、地域農産物のPRを行った。

生活研究グループは、手作り串こんにゃく、草餅、金山寺みそなど農産加工品を販売し、4Hクラブは、かき、温州みかん、はくさいなど農産物の販売、高野山麓農産物産地化協議会は、高野山麓精進野菜の販売を行った。また、伊都地方農業振興協議会では、柿料理レシピ集等の配布やパネル展示、カット柿の試食を行い、かきの消費拡大活動を行った。

レシピ集を受け取った消費者からは「珍しい料理が多い」、「購入したかきを使って試してみたい」といった反応があった。



伊都地方農業振興協議会によるかきのPR

4. クビアカツヤカミキリ特別警戒調査の実施

伊都地方では、すもも・もも・うめ及びさくらなどの樹木を加害する特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」による被害樹が増加している。令和6年10月末までの農地における被害樹の累積は、かつらぎ町では、479地点2,834本、橋本市では、365地点1,327本、九度山町では、8地点20本であった。

被害の早期発見と対策を目的に、11月21日から12月5日までのうち7日間、伊都地方農業振興協議会果樹病害虫防除対策会議の関係機関（JA紀北かわかみ、橋本市、かつらぎ町、九度山町、NOSA Iわかやま、かき・もも研究所、振興局）が協力し、特別警戒調査をのべ約90人で実施した。かつらぎ町で549地点、橋本市で204地点、九度山町で39地点の調査を行い、218地点で新たな被害樹を確認した。

農業水産振興課では、今後も引き続き、関係機関と協力して防除啓発及び防除指導を行っていく。



調査方法の説明

IV 有田振興局

1. 吉備湯浅 PA において「有田みかん」および「日本農業遺産」を PR

有田地域農業振興協議会と有田みかん地域農業遺産推進協議会（いずれも有田地域の4市町とJA等で組織）は、11月24日、吉備湯浅PA（上り）において、有田みかんと「みかん栽培の礎を築いた有田みかんシステム」の日本農業遺産認定のPRを行った。

県内外から訪れた方に向け、日本農業遺産ポスターの展示やPR動画を放映し、有田みかんとPRチラシを配布した。今年も品質の良いみかんに仕上がっており、みかんを食べた方からは「甘くておいしい」、「ここで買えますか」といった意見が寄せられ好評を頂いた。1日を通し、約500名に対して有田みかんと日本農業遺産認定をPRした。

農業水産振興課では、今後も両協議会と連携し有田みかんや農業遺産のPRに取り組んでいく。



ポスター等の展示



有田みかんの配布

2. 田んぼの学校（有田市立糸我小学校）アイガモ農法による米作り 体験を振興局長へ報告

有田市立糸我小学校では、糸我地区青少年育成会が主催する「田んぼの学校」の校長山崎佳彦氏指導のもと、アイガモ農法による米づくりに取り組んでおり、11月18日、糸我小学校5年生の代表児童2名が有田振興局長を表敬訪問し、1年間の農業体験の報告を行った。

今回の訪問では5月から実施した、種まきから田植え、アイガモ放鳥、稲刈り、脱穀までの体験および11月10日に地元公民館で実施されたアイガモ米販売について報告があった。児童から「稲刈りは鎌に慣れていないので、作業が大変だった」、「米の販売はわずか1時間で完売し、大好評で嬉しかった」等の感想が述べられ、振興局長へ収穫したお米の贈呈を行った。

さらに「夏の暑い時期にアイガモの世話を交代で行い、大変だった」、「給食の時間にみんなで試食し、自分達で作ったお米をみんなに食べてもらえて嬉しかった」と報告や感想が述べられた。

振興局長から「消費者もおいしく環境に優しいお米を求めているため、アイガモ米が大好評だったのだと思う。地域で伝統になっている素晴らしい活動だ。下級生に引き継ぐだけでなく、糸我から他地域へ田んぼの学校の取り組みが広がっていくことを願う」と感想が述べられた。



児童代表、山崎校長らによる表敬訪問



公民館でのアイガモ米販売の様子

V 日高振興局

1. 重点プロジェクト【クビアカツヤカミキリ対策の強化及び梅の安定生産】

～うめ「南高」のカットバック処理+摘心処理に係るせん定講習会を開催～

農業水産振興課では、JA紀州、うめ研究所等と連携し、うめ「南高」のカットバックに摘心処理を組み合わせた青梅生産性向上技術の普及に取り組んでいる。

11月7日、うめ生産者を対象とし、「カットバック+摘心処理樹」のせん定講習会を日高川町の園地で開催し、10名の農業者の参加があった。

講習会では、来年の花芽確保と、これまでの処理で形成されている結果層の管理に重点を置き、行森普及指導員が、充電式電動バリカンを使用して実演指導を行った。

参加者からは「今年は不作だったが摘心処理をした樹の収量はどうだったか」、「摘心処理により果実が小玉化することはないか」といった質問が寄せられた。



カットバック+摘心処理樹のせん定講習会（日高川町）

2. 温州みかんの出前授業（収穫体験）を開催

農業水産振興課は、11月8日、地域農業士の坂田寛樹氏の「ゆら早生」園地で、日高川町立川辺西小学4年生31名を対象に、みかんの出前授業を行った。

最初に、柏木普及指導員から和歌山県のみかんの収穫量や種類、おいしいみかんの見分け方について説明をした後、森普及指導員からみかんの栄養成分、加工品の種類の説明を行った。

続いて坂田氏指導のもと収穫体験を行うとともに、児童が選んだみかんの糖度測定と試食を行った。

児童からは「美味しいみかんの見分け方がわかった」、「いつも食べているみかんより甘くて美味しかった」等の声が聞かれ、収穫の喜びを児童らに体験してもらうことができた。

当課では、今後も本県農業への理解を深めてもらうために、出前授業を実施していく。



坂田氏による収穫の説明と集合写真

3. いちご生産者の園地巡回を実施

農業水産振興課では、管内のいちご生産者の要望を受け、8月下旬から10月上旬にかけて苗の花芽分化状況を検鏡し、定植時期の判断について支援を行った（9月号で既報）。

今年記録的な残暑に見舞われたことを受け、定植された苗の生育・開花状況並びに現場で実施された高温対策等の効果を調査するため、検鏡を行った生産者14人の園地巡回を11月7日から行った。

夜冷育苗、普通育苗とも前年と比較して花芽分化が遅れたことから、訪問したほとんどの生産者が定植を遅らせており、夜冷育苗で9月中旬、普通育苗で10月上旬であった。頂花房の開花は、定植の遅れを受けてずれ込んだが、未開花や大きなばらつきは見られなかった。

また、高温対策は、夜冷育苗の早期定植分においては遮熱資材の被覆、ミスト噴霧などが実施されていたが、普通育苗では特段の対策は行われていなかった。生産者からは、検鏡結果を生産者間で共有できる仕組みや気候温暖化を踏まえた栽培管理見直しの必要性を唱える声も上がった。



開花状況を確認



生育状況を聞き取り

VI 西牟婁振興局

1. 重点プロジェクト【うめの超省力技術と低樹高コンパクト整枝の導入推進による産地維持】

～うめ摘心樹のせん定及びカットバック処理の講習会を開催～

農業水産振興課では摘心処理によるうめ果実の安定生産と管理作業の省力化につなげるカットバック処理を組み合わせた現地実証園を田辺市内2地区、上富田町内1地区に設置している。

この度、摘心樹のせん定とカットバック処理の講習会を、生産者を対象に10月17日（田辺市秋津川地区）、11月7日（上富田町岡地区）、技術指導者を対象に11月22日（田辺市下三栖地区）にそれぞれ開催し、延べ生産者47名、JA紀南営農指導員10名が参加した。

上富田町の講習会では、当課普及指導員による摘心樹のせん定後、JA指導員によるカットバック処理の実演を行った。留意点として、せん定では太枝や込み合っている枝の間引き、結果層の高さを20～30cm程度に切り揃える、カットバック処理では樹高約2.5mの位置まで樹を切り下げるなどを指導した。

講習会終了後には、技術習得に意欲的な農業者数名と営農指導員3名とともに、昨年度から摘心処理している実証園内の15樹に対してカットバック処理とせん定作業を行った。互いの技術習得を図る良い機会となり、今後とも各実証園の活用により技術普及に努める。



普及指導員によるせん定の実演（上富田町）



JA 営農指導員によるカットバック処理（上富田町）

2. 農業士会女性部会が出前授業を県内外で実施

西牟婁地方農業士会連絡協議会女性部会（部会長：武森直子氏）は、11月中に田辺市と大阪府で出前授業を実施した。

田辺市立会津小学校では、地元の特産物についての学習に力を入れていることから、4年生57名を対象に、11月18日はうめ、11月20日はみかんの出前授業を実施。

うめの出前授業では、西牟婁地方4Hクラブ連絡協議会とタイアップし、女性部会からは山添踊香氏と左向益美氏が、うめの産地や品種、年間の梅畑の様子や梅干しができるまでの作業等について説明、梅干しを配布した。4Hクラブからは、小谷将之氏と山崎昴幸氏が梅シロップのおすすめの飲み方として「うめラッシー」を紹介した。

みかんの出前授業では、平田秀美氏と麩 良子氏が、みかんの産地や柑橘の種類について、園地での作業から出荷・流通について説明し、「おいしいみかんの見分け方」や「和歌山むき」を紹介した。またみかんの贈呈も行った。

いずれの出前授業においても、児童たちは興味深く話を聞き、質問もたくさんあった。今回学習したことなどをもとに、地域の特産品についてとりまとめ、3学期にJR紀伊田辺駅等で前年に引き続き画像紹介されるとのことである。

また11月26日、大阪府立堺聴覚支援学校小学部の3年生から6年生19名及び教員10名を対象に、武森直子部会長、松場裕香氏および竹本京子氏が、和歌山のうめをPRするための出前授業を実施した。「梅の一年」の話、冷凍梅と氷砂糖を使った梅シロップづくり体験の指導、梅おにぎりの試食や梅ジュースの試飲、梅干しや梅料理レシピの配布をおこなった。児童たちは、手話通訳を通じて部会員の説明を熱心に聴き、梅シロップづくりを楽しみ、最後に出前授業で感じた率直な意見を発表してくれた。

今年度、出前授業の担当を部会員で分担し、手ごたえのある出前授業を3回実施できた。農業水産振興課では、引き続き女性部会の出前授業等の活動を支援していく。



梅の出前授業(会津小学校)



みかんの出前授業(会津小学校)



梅シロップづくり体験指導(堺聴覚支援学校)

3. 西牟婁地方リーダー研修会を開催

西牟婁地方生活研究グループ連絡協議会（会長：森川敏子氏）は、1月の能登半島地震や8月の南海トラフ地震臨時情報発表などにより、災害への備えについての関心が高まった事を機に、研修会のテーマを「防災」とし、11月13日にリーダー研修会を開催し、会員27名が参加した。

前半は、日本赤十字社和歌山県支部の「防災・減災セミナー」を活用し、「災害への備え」と「応急手当」について受講した。「災害への備え」では、地震や津波から命を守るための心構えや準備、避難生活での心構えや地域の助け合いの重要性等についての講演を聴いた。続いて、「応急手当」では、傷の手当や止血法など実演を交えた説明があり、三角巾やレジ袋等を活用した腕の吊り方を実際に体験した。

後半は、会員2名が講師となり、県協議会リーダー研修会で習得した「簡易トイレの作り方」を伝授した。

会員からは、「災害への備えを見直したい」「応急手当や簡易トイレづくりを实际体験できて楽しく学べた」などの声が聞かれた。



三角巾を使った応急処置の実演

Ⅶ 東牟婁振興局

1. 新宮周辺地場産青果物対策協議会が先進地視察研修を実施

11月29日、新宮周辺地場産青果物対策協議会（会長：小田三郎氏）は、和歌山市秋月のブロッコリー等のほ場と印南町山口のブロッコリーほ場を視察した。当日は生産者2名、市場関係者2名、JAみくまの職員1名及び当課2名の計7名が参加した。

まず、和歌山市でブロッコリー等を栽培している2名のほ場を見学した。JAわかやま中央営農センター小川昂大営農指導員から、和歌山市で栽培しているブロッコリーの品種や出荷形態、今年は黒すす病の発症が多かった等の説明があった。参加者は園主と交流を深めながら、発生しやすい病害虫の違いや、育苗方法などについて質問をした。

続いて、印南町でブロッコリーのほ場を見学した。JA紀州いなみ営農販売センター清原夏樹営農指導員から当該地域で栽培されている品種特徴や防除薬剤等について説明があり、参加者からは除草の方法などについて質問があった。



和歌山市秋月ブロッコリーほ場



印南町山口ブロッコリーほ場

2. 東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会が農産物即売会を開催

11月30日、東牟婁農業青少年クラブ連絡協議会（会長：安田裕志氏、以下4Hクラブ）は那智勝浦町体育文化会館前で農産物即売会を開催した。

4Hクラブでは、那智勝浦町農産物品評会の開催に合わせて、クラブ員がそれぞれ生産した農産物や加工品を持ち寄り、例年開催している。

今年は残暑、害虫の影響により栽培が難しい状況だったが様々な品目を出品し、例年通り多くの方が即売会テントを訪れ、売れ行きは好調だった。クラブ員は訪れた人と会話を楽しみながら、販売物の味や料理の際のポイント等を伝え、地域の消費者に対し地元野菜のPRを行った。



即売会の様子

Ⅷ 農林大学校

1. 園芸学科 1 年生、各試験場で研修を実施

10月28日～11月1日、果樹試験場、かき・もも研究所、農業試験場の協力のもと、本校園芸学科1年生12名がそれぞれの試験場で研修に励んだ。

果樹試験場では、天敵を利用した害虫の防除方法がかんきつでも取り組まれている事や、普段身近でない獣害対策の取組について学べたことは刺激となったようであった。

かき・もも研究所では、かきの新品種育成調査の一環で行った果実調査(糖度、果実硬度、果実重、果皮色など)を初めて体験し、卒業論文の課題の決定に向けて参考となったようであった。

農業試験場で研修を受けた学生らは小ギクの人工授粉や水稻の収量調査、いちごの新品種育成などの調査を間近で学ぶことで、観察の大切さを学んだようであった。また、えんどうの誘引の際に学校との結び方の違いやマルチの敷設方法の違いなど、目的によって手法が変わる事も新鮮な学びとなったようであった。

1年生にとっては卒業論文の課題について、本研修が学びとなったことは元より、日々の実習においても取組姿勢や、細かな技術など新しい発見があったと思われた。

2. アグリビジネス学科 1 年生の販売研修を実施

10月28日～11月1日、アグリビジネス学科1年生5名を対象に販売研修を行った。この研修は、農産物販売を行う直売所、小売店等での業務体験を通じ、農産物の流通や販売、消費者ニーズの把握などを学ぶことを目的としている。

学生は、それぞれの直売所においてバックヤードでの袋詰めや売り場では商品の検品や品出しなどを体験し、悪戦苦闘しながらも職員の方々にアドバイスを受け自信をつけた研修となった。

学生を指導していただいた直売所の皆様には感謝するとともに、今回の経験を今後の学習に活かしていくことを期待する。



売り場でブロッコリーを検品



バックヤードできゅうりの袋詰め

IX 経営支援課

1. 令和6年度普及指導員新技術習得研修を開催

農業革新支援センター（経営支援課普及班）では、最新の試験研究や栽培技術について学び、普及活動に役立つ技術や知識の習得を図ることを目的に、新技術習得研修を実施している。

11月18日、県果樹試験場かき・もも研究所において、病害虫に関する講義と防除に関する実習を行った。実習では、県内各地域で問題となっているクビアカツヤカミキリについて、幼虫の掘取り方や、樹へのネット被覆方法を、担当研究員や現地普及指導員から学んだ。

また、25日には、県果樹試験場うめ研究所において、うめ「南高」の摘心処理樹のせん定や、うめ「露茜」の一文字仕立てに関する講義と実習を行い、せん定技術について担当研究員と活発に意見交換した。

受講者らは、実際に作業を体験することで、今後の現地指導や対応のポイントを得たようであった。

今後、2月に県果樹試験場において、かんきつに関する研修を実施する予定である。



クビアカツヤカミキリ幼虫掘取り実習



「露茜」一文字仕立て樹のせん定実習

普及活動現地情報 発行・編集

和歌山県農林水産部経営支援課	TEL073-441-2931	FAX073-424-0470
海草振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL073-441-3377	FAX073-441-3476
那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-61-0025	FAX0736-61-1514
伊都振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0736-33-4930	FAX0736-33-4919
有田振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0737-64-1273	FAX0736-64-1217
日高振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0738-24-2930	FAX0738-24-2901
西牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0739-26-7941	FAX0739-26-7945
東牟婁振興局農林水産振興部農業水産振興課	TEL0735-21-9632	FAX0735-21-9642
和歌山県農林大学校	TEL0736-22-2203	FAX0736-22-7402
和歌山県農林大学校就農支援センター	TEL0738-23-3488	FAX0738-23-3489